都道府県別賞一等

保険で守られた私の未来

埼玉県　川口市立安行東中学校　一学年

柴田　桃羽

私は小学二年生の時に父を亡くしています。その後の生活がどうなるのかとても心配でしたが、その時に助けになり心強かったのは、父が加入してくれていた生命保険と、私と兄の学資準備のための保険です。

具体的に言うと、こういった経験のない人には伝わらないことが多いのだけれど、父にかけていた保険はその後の私たちの生活を支えてくれています。それに加え、私や兄にかけていてくれた学資準備のための保険が、それ以上払い込まなくても満期時に大学に使うための学資金になることが分かって、母も私も兄もほっとしたことを覚えています。この保険があることで、私は大学進学時も安心していて大丈夫だよと母が教えてくれました。正直なことを言うと、その時私は幼すぎて理解することが出来なかったけれど、現在、自分が中学生になって、この先の進路を考えるようになり、学資準備のための保険があったことがとてもありがたいことだったと理解することが出来るようになりました。

母がよく話してくれることがあります。人生は「まさか」が無いと思っていても、起きるかもしれないといつでも備えておくことが大切だと。家族とその生活を守るのは確かに生命保険だったし、自分がケガをしたり、病気になった時に金銭的に守ってくれたのは医療保険でした。

現在、日本人の平均寿命は延びているし、超高齢社会が進んでいます。何か大きな病気をした時や、入院をする時に医療保険や高度医療を受けられる保険の選択肢などがあれば、通常では受けることが出来ないような最先端の医療を受けることが出来ます。

このことから、私がこれからの将来に考えなくてはならないのは、人生がどのくらい続き、人生の設計をしっかり立てていくことだと思います。

そのために、これからの人生を守るためのライフプランを作ることがとても大事になってくると思います。生命保険のコマーシャルで聞くことが多くなった人生設計というものがそれに当たると思います。

私はまだ中学生ですが、これから高校生、大学生になることは学生時代の大きなイベントであると考えています。兄の高校受験や大学受験を間近に見ていて思うことがあります。受験ひとつをとってみても、学費だけではないということです。まず受験をすること、受験が終わった後も大きなお金が動きます。そういったことを、現実的によく考えておかなければならないと思っています。これが私が

近いうちに経験するであろう人生の大きなイベントです。

その先のことは、まだまだ思いつくことがありませんが、母が、父が亡くなってからファイナンシャルプランナーの勉強をしたように、正しい知識があるかないかは自分の人生を大きく左右すると感じています。私は、誰かに頼って分からないふりをするのではなく、自分の人生をしっかり守っていけるように、正しくて新しい知識を吸収して生きていきたいと思っています。自分の人生を守るのは、自分次第だと身をもって経験したことは、私の生き方の大きな力になっています。